

滝の周辺を青梅市が整備

「この滝を多くの人に見てほしい」と考えた越前さんは、滝の周辺を整備してくれるよう青梅市に掛け合いました。市は東京都の補助を得て令和3年度に生い茂っていた木を伐採。その丸太を使って階段を設置し、多摩産材を使って手すりを付けました。4年度には遊歩道やベンチも設置しました。

「滝の周辺には自生ではなかなか見られないミツバツツジや絶滅危惧種のシュンラン、イワタバコ、ダイモンジソウ、イチヤクソウなどが咲き、ここは自然の宝庫です。ぜひ多くの方に訪れてもらい、美しい自然の中に身を置き、滝から出るマイナスイオンを浴びて心を癒やしてほしい」と越前さんは話します。

▼滝の周辺には遊歩道も設置されている



滝にまつわる哀しい伝説も

「一の滝」は別名「おデンの滝」とも呼ばれています。「おデン」とはその昔、この滝の上の水車小屋で老夫婦と暮らしていた孝行娘の名前です。毎年、秋には秩父の領主様が鎌倉の將軍様へ上納するため、米や漆などをこの地で用意させていました。ある年、春は長雨、夏は日照りが続き、米は不作になりました。しかし、年貢米は何としても納めなければなりません。デンの小屋では幾日もかけて、村人が持ち寄った米を揃いて俵に入れ、納屋にしまつて領主様が来るのを待ちました。ところが、ある夜、ひどい嵐が襲つて沢が増水し、大事な米が納屋と共に流されてしまったのです。

途方にくれたデンは堂山のお不動様に参り、一心不乱にお経を唱え続けました。すると満願の日、不空羂索明王が現れ、「夜が明けぬ前に滝へ行き、経文を唱え、滝の水を8回掬い給え」と告げたのです。デンが言われた通りにすると干上がった滝壺には白い米が一面に積もっていました。明王様が素を一振りするとデンの横には米俵が一つずつ積み上げられ、滝口に朝日が輝き始めたころ明王様もデンの姿も消えていました。「デンは明王様に召されたのだらう」と人々は語り伝えたそうです。

ダイモンジソウ



イワタバコ

「青龍の滝」という別名も

「一の滝」には「青龍の滝」という別名もあります。これは滝の近くにある大聖院の寺号が青龍寺であることに由来しています。また、明治・大正時代に滝の上にあった水車小屋の番人の名をとった「ダイさんの滝」という名もあります。このように一つの滝がいろいろな名前と呼ばれていたことは、地元の人にとって存在感のある特別な滝だったのでしょう。

越前さんはこの滝を多くの人に知ってもらえるよう、幾代会の仲間と共に看板を立てる準備を進めています。さらに「滝の入口周辺に吉野梅郷のシンボルである梅の木を植えて、青梅の新たな観光名所になりたい」と夢を広げています。

相談できる身近なパートナーとして
全力で夢実現のお手伝いをいたします

TKCシステム 税理士法人
小澤会計事務所 青梅市師岡町2-36-1
tel. 0428-22-7882

住宅 オフィス 工場 など
新築 建替 リフォーム も!

岩浪建設 お気軽に
ご相談ください
本社 〒198-0052 東京都青梅市長淵7-318
FM NACK5でラジオCM放送中!
0120-54-1873



人のため 社会のために